

地域活性化に向けたオープンデータを 活用する「まちあるきアプリ」の作成

木原遼介、久保田明輝、篠田航、鈴木健太、寺岡賢伸、河野優舞、林修多、俣江悠聖、安藤心雪、賀川経夫
(大分大学 理工学部 共創理工学科 知能情報システムコース)
協力:大分市役所大南支所地域おこし協力隊、Code for Oita

背景・課題

- オープンデータを有効活用した地域の活性化への取り組みがなされている
- 情報の公開は進められているが、それらを活用したICTによる地域の活性化についてはあまり事例が多くない

プロジェクトの目的

地域の特性を活かしつつ、散策する楽しさを提供できる「街歩きアプリ」を開発する
新たな視点で地域の魅力を引き出すことができるアプリを目指す

実施内容

マッピングパーティ

- 誰でも編集可能な地図のオープンデータであるOpen Street Map (<https://openstreetmap.jp/>)について、対象地域を歩きながら調査し、地図を充実させるイベント
- 戸次地区について散策し、各自が気になったところを地図に集約した



アイデアソン



マッピングパーティで集約された様々な意見に基づいて、地域が抱える問題点の抽出とその原因の検討、その問題の改善案に関して議論し、以下のような問題点が挙げられた

- 納豆の自動販売機や地元特有のカフェなどユニークなものがあった
- 神社や古い街並みとそれに関する逸話は興味深い
- 河原では、人が集まっているいろいろなことができそうであった
- 川沿いの堤防など景色の良いところも多くあった
- 本町では交通量が多かった、脇道に入ると歩きやすかった
- 街灯が少なく感じたので、夜の状況を調べる必要がある
- ベンチなどの休憩場所が少ない
- 歩行者用信号の切り替わりが早い

アプリの作成

- 「道ごとの情報を提示する」機能
- 訪問者が実際に歩いた道に評価やコメントをつけてもらう仕組みを構築

まとめと今後の課題

- 地域の方と協議をしながら、地域特有の良さを知るとともに問題点を把握する良い機会だった
- 新たな視点を得ることができて、非常に有意義だった